

今週のズバリ こう見る

Analysis

どの商品にも当てはまるが、金もテクニカル及びファンダメンタルズだけを見て取引すると、成功はおぼつかない。トレンドと相場(ばあじ)を把握し、タイミングを掴んで取引することが肝要だ。ネットトレーダーの欠点は、誰もが知っているファンダメンタルズやテクニカル要因にこだわって、

NY1、600ドルが目標 トレンドと相場を把握する



(株)岡地 東京支店 投資相談部 千葉 純平氏

相場の流れやそれに伴うマーケットの動きをキャッチ出来ないからだ。まして、遅効性のあるテクニカル指標を利用しての取引はいただけない。金を取引するうえで、個人的に利用しているのがRCI(順位相関指数)だ。詳細は割愛するが、金相場のトレンドを見通すう

えで、有効な指標で、常にこの数字を追っている。今、このRCIが弱気を示唆する流れに入ってきた。チャートを重ね合わせると、ニューヨーク金期近の1,600ドル、東京期先の4,000円が下値目標の線型になっており、目先は売りで仕掛けるのが無難といえよう。ただし、長期的

には買いたい。金ETF(上場投資信託)の動向から目を離すことが出来ない。その増減は、金のトレンドそのものを映し出しているからだ。これからの金は振幅の大きな動きを見ることがあるが、急落した時は買い拾い、急騰した時は売るのが基本策といえよう。

ユーロ安・円高懸念を残す ヘッジファンドの動き注目

FOREX 為替



アドリ貿易認定ロケットアドバイザー 佐藤 利光氏

ユーロは予想通りの展開だ。ユーロ成立当時から複数国家による通貨体制の構造的な弱点を指摘してきたが、その弱さが露呈したのが現在の状態だ。ユーロは常に下落する恐れがあるので、相対

的に円は強くなる可能性が高い。為替市場で金融機関や短資会社のディーラーは政府金融当局と対決する姿勢をとる習性がある。どこまで介入するかを確かめるのが目的だ。10月末に

日銀が介入して1ドル75円台から77〜78円まで誘導した。今後、再び75円台があるかどうか、ディーラーが円高局面で円高限界を試すことも想定する必要があろう。当面、1ドル76円を試すことになりそう。貿易関係者が円ドル相場の行方を心配しているが、輸出関係企業は円高対応の努力を続けているので、意外とダメージは強くないだろう。ただ、75円を抜く円高が長引

くと企業の体質を弱らせるので、国内景気にとってはマイナスになる。出来るならば円安基調が続くことが好ましいが、海外の通貨対応はユーロ・ドルが中心であり、円はアウトサイダーであるため、円に対する配慮は期待しにくい。ヘッジファンドが円高を仕掛ける可能性があるだけに、円高のリスクを抱えつつ越年し、年明けの企業益出しによる円高局面を乗り切った後に円安へ向かいそうだ。

金は目先、揉合う公算が大きい。基本的には短期も長期も強気方針で臨みたい。ニューヨーク金期近は1,700ドルを割ると実需の活発な買いが入る。年末年始にかけては世界的に重要最盛期となり、年が明けると中国を中心に旧正月需要が入り、需給がタイトになりやすい環境といえる。

となつて危機回避に向かい、小康状態になったため、金価格も落ち着いた動きを見せた。

式はもちろん、為替金を含めたマネーマーケットの動向を左右しよう。

堅調な実需の買いが支える 修整経て2,000ドルへ

GOLD 金



(株)エース交易 シニアアナリスト 陳 晁熙氏

しかし、それも、その場しのぎであるとの見方が根強く、引き続きEUの債務危機が株

欧州の債務危機がエスカレートするなか、米国債に資金を逃避する動きが見られるが、

米国にしても経済状況は悪く、格下げリスクは解消されていない。つまり、米国債とて、決してリスクフリーということとは出来ない。ドル、ユーロの二大軸通貨の信認は崩れている。ニューヨーク金は調整局面後の揉合局面にあるが、実需の底堅さを背景に1,800ドルを超える活発な買いが出て、2,000ドルを目指す展開が予想される。突っ込んだところを買いたい。